

## 記者発表資料

### 稚アユの遡上に対する取り組み

江戸川では稚アユの遡上が3月から始まっています。

利根川で生まれたアユは関宿地点で利根川と江戸川に別れて下流に下ります。江戸川に下ったアユは江戸川水閘門を通過して東京湾に向かい、一時的に海で生活した後再び遡上します。江戸川のアユの遡上時期は例年3月～5月頃になります。

江戸川水閘門には魚道がありません。また、江戸川の下流部には浄水場等があり、江戸川水閘門は潮止めの機能を有しているため、塩分が遡上しないよう通常水門が閉まっている時間が長く続きます。水閘門が閉まっていれば、アユは遡上出来ません。

そのため、江戸川河川事務所ではアユが遡上しやすくなるような試行をしながら調査を行っています。下記のような水門及び閘門の操作方法を試行しながら調査を行っています。

- ①閘門の開閉によって魚道と同じような効果を得られるか。
  - ②水中ポンプを使用して水流を作る事によって稚アユを誘導出来るか。
- このような取り組みは、江戸川河川事務所では初めての試みになります。調査結果を踏まえて今後の対応を検討していく予定です。

平成19年 4月23日（月）

#### 同時発表記者クラブ

竹芝記者クラブ・神奈川建設記者会・横浜海事記者クラブ・東京都庁記者クラブ  
千葉県政記者会・埼玉県政記者クラブ

#### 問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 江戸川河川事務所  
副所長 渡邊 正美  
調査課長 渡部 孝  
電話 04-7125-7311（代表）

# アユの遡上に対する江戸川河川事務所における取組

